



本日のお題

1. 丹沢で効果的なシカ捕獲体制の組み合わせ
2. ワイルドライフレンジャーと県猟友会によるシカ捕獲状況
3. 森林の植生回復に向けて

丹沢の保護区(国定公園)管理の経緯

1960～90年代 大学・NGOによる継続的な環境調査

- ・シカの生態調査研究を継続
- ・調査結果を元に科学的野生動物管理の必要性を提起

1993～96年 丹沢大山自然環境総合調査

- ・シカによる植生衰退や、オゾン・ブナハチによるブナの立ち枯れなどの実態が明らかとなった
- ・調査団は自然環境の総合的な保全管理の必要性を提言



1999年 丹沢大山保全計画

2000年 神奈川県自然環境保全センター設置

特別保護地区の山稜部の状況



様々なシカ影響



自然環境保全センターの設立

県立自然保護センター
箱根自然公園管理事務所
丹沢大山自然公園管理事務所
森林研究所
県有林事務所
水源の森林推進課
分収林課

平成12年4月 → 平成22年4月

自然環境保全センター
《目的》
●緑関連施策の効果的展開
●丹沢大山保全計画の総合的な推進
●水源環境保全エリアを含む森林・緑関係の中核的な推進母体

丹沢のシカ保護管理の経緯

平成15～18年度 (第1次) 神奈川県ニホンジカ保護管理計画

・計画に基づく科学的な野生動物管理をキックオフ

2004～06年 丹沢大山総合調査
2006年丹沢大山自然再生基本構想

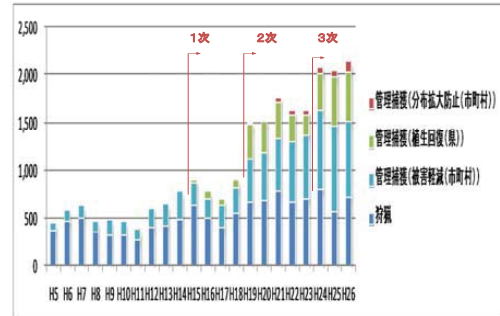
平成19～23年度 第2次神奈川県ニホンジカ保護管理計画

・取り組みを強化(通年管理捕獲、メスジカ捕獲など)

平成24～28年度 第3次神奈川県ニホンジカ保護管理計画

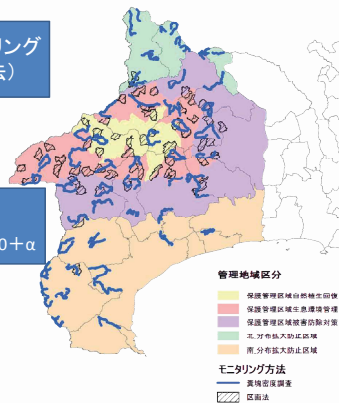
水源環境保全税の導入⇒ほぼ全面展開へ！
(導入して5年経過)

第1次計画から第2次は一般会計、第3次からは水源税(特別会計)を追加導入し、段階的な捕獲強化



シカ関連のモニタリング
(糞塊法・区画法)

+
植生(組成)調査100+α

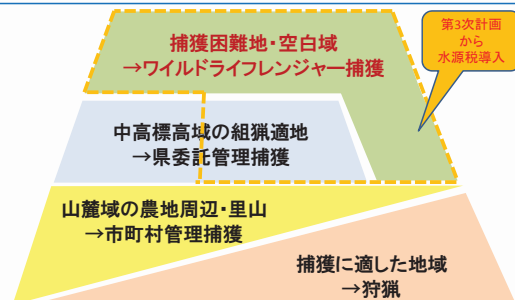


特別保護地区の山稜部の状況



場所によっては土壌流出も

⇒捕獲空白地、隙間のないシカ捕獲ができていないのか？



丹沢での効果的なシカ捕獲体制の組み合わせ

シカ捕獲が十分にできなかった
高標高では？



高標高域の山稜部等における
ワイルドライフレンジャーによる捕獲

ワイルドライフレンジャー(WLR)の取り組み

◎WLRの役割

- ①シカの捕獲が専門
- ②H24、25年度は3名

→少ない人数でも効果的に捕獲できる手法を検討、実施

◎高標高では、シカの生息数が減らない！

⇒H27から5人、H29から6人に増員し、方針を転換！

- 高標高地域(稜線部)
- 捕獲困難地(捕獲空白地)

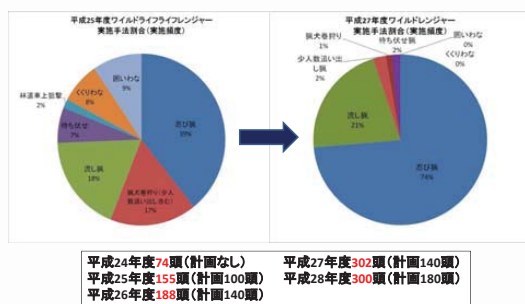
→猟犬を使用した多人数の巻狩りが不向きな場所
→現場に行くまで時間や体力を要する場所
→今までシカの捕獲を実施していない場所

ワイルドライフレンジャー(WLR)の取り組み ～今までに試した猟法～

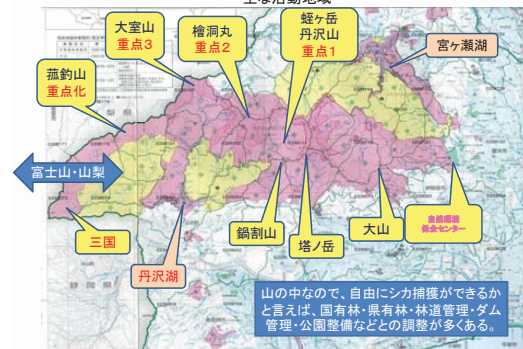
基本的に銃器を使用することが中心

- | | |
|-----|---|
| 銃猟 | ① 忍び猟 = WLRの中心的な捕獲手法
* 遠距離射撃を含む |
| | ② 流し猟 |
| | ③ 少人数追い出し猟 |
| | ④ 待ち伏せ猟 |
| わな猟 | ⑤ 林道車上狙撃 |
| | ⑥ 足くりわな(冬季のみ) |
| | ⑦ 囲いわな |

ワイルドライフレンジャー(WLR)の取り組み ～WLRが実施している手法(猟法)～



ワイルドライフレンジャーの活動 ～主な活動地域～



ワイルドライフレンジャー(WLR)の取り組み ～WLR日々の活動～

- ① **いつもは(3～5日/週)**
 - ・日帰りで行ける場所、日の出時間、日の入り時間(シカが活発に動く時間)に合わせて出動。
 - ・射撃場練習、銃刀法調整、弾購入、備品購入
 - ・森林整備、林道補修、登山道・植生保護柵の工事情報
- ② **週を定めて(月に2～3回) *上記・下記の段取りが大事！**
 - ・山小屋などに1泊～最大4泊し、日帰りでは対応が困難な地域の捕獲を行う。
 - ・**気象の判断が非常に重要、気象図とにらめっこ。**
- ③ **他にも**
 - ・神奈川県猟友会のシカ管理捕獲(うち週1回)に同行
 - ・捕獲地の調整。

ワイルドライフレンジャー(WLR)の取り組み ～遠距離射撃や薄明薄暮捕獲～

- ◎ **遠距離射撃：ライフル銃のみ**
 - 山中で行う忍び猟の中で、高標高稜線部では距離400m程度の範囲で遠距離射撃を行う。
 - シカが気付かない、逃げない距離から発砲する。
- ◎ **薄明薄暮捕獲(山小屋宿泊捕獲)：ハーファイルも可**
 - 日の出直後、日の入り直前はシカの動きが活発になり、見える場所に出てくることが多い。
 - シカの目撃効率が高まる。



高標高遠距離射撃(丹沢山(北西斜面)300m)
2015年7月23日PM3:55
8頭の群れ



重点地域1
(不動ノ峰(南斜面))

2015年12月16日AM6:55
9頭の群れ(850m)



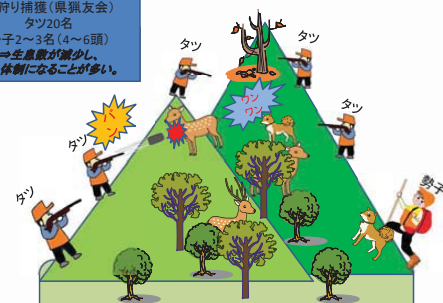
平成27年度高標高稜線部(丹沢中央BD)捕獲結果
～WLR活動主稜線(塔ノ岳、丹沢山、蛭ヶ岳、檜洞丸)～



薄明薄暮シカ捕獲(高標高域の山稜部)



巻き狩り捕獲(県猟友会)
タツ20名
勢子2～3名(4～6頭)
⇒生息数が減少し、
3名休割になることが多い。



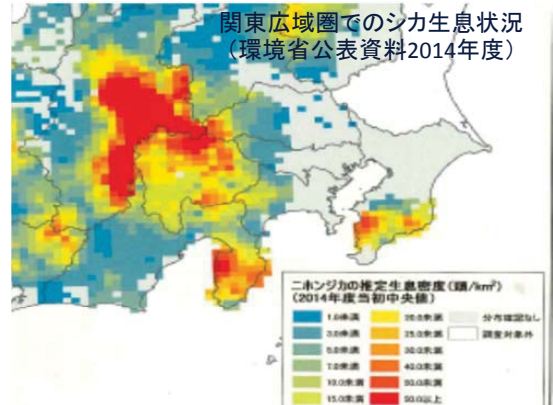
神奈川県猟の地元ハンターによる捕獲
○犬を使って1日に繰り返し、線密に捕獲を実施できる
* 生息数が少ない、ボサが多い、乱場近くスレている場合は、
犬が頼り、レンジャー捕獲では無理

自然植生回復のための管理捕獲

- 中標高域で、県猟友会によるシカ捕獲
- 個体数、捕獲個体の質、植生等をモニタリング



関東広域圏でのシカ生息状況
(環境省公表資料2014年度)



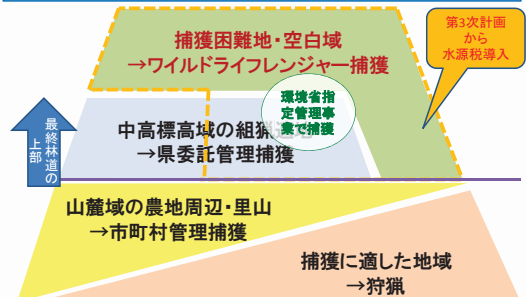
神奈川県的主要なシカの生息地域：丹沢山地



森林面積：
約500km²
自然公園面積：
約400km²

神奈川県立自然の里・地球
博物館作成図より

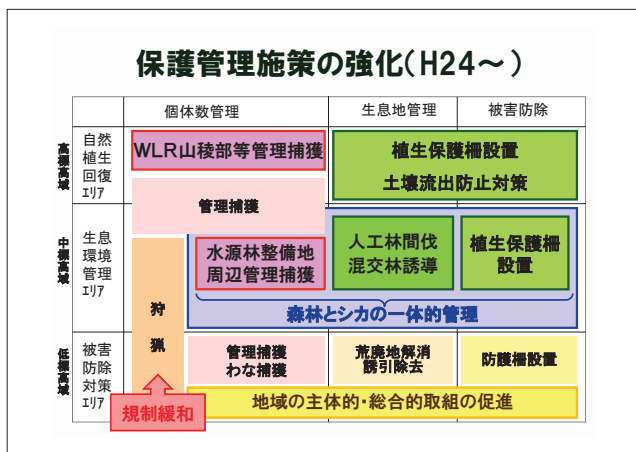
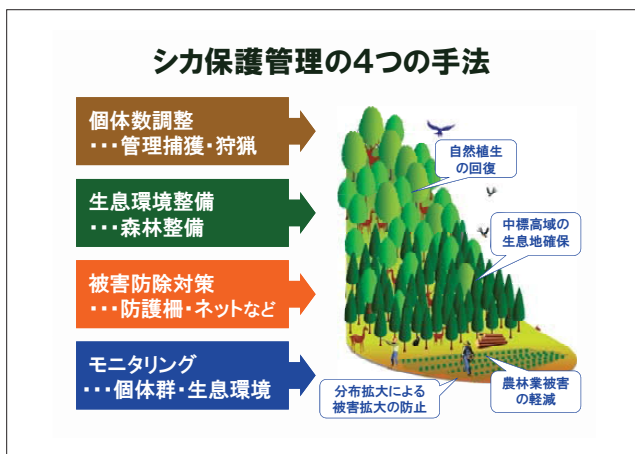
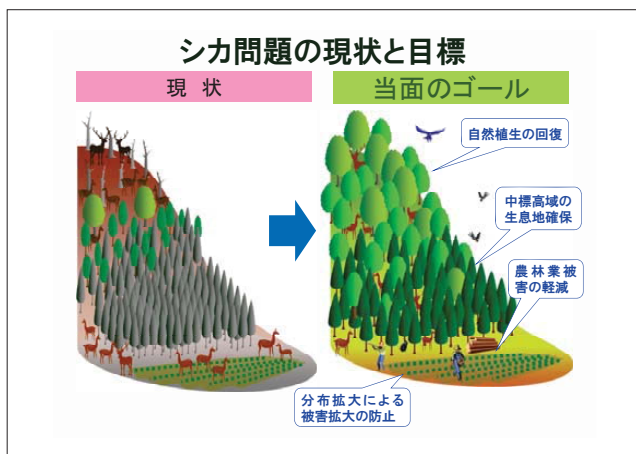
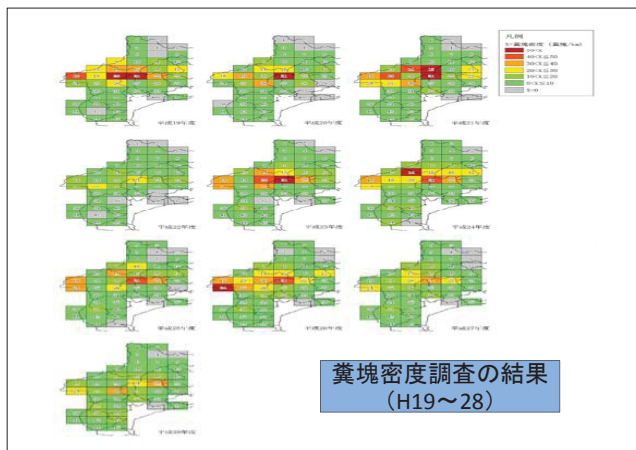
⇒捕獲空白地、隙間のないシカ捕獲ができていないのか？



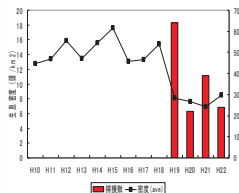
丹沢での効果的なシカ捕獲体制の組み合わせ

箱根山地でのシカ捕獲状況 (環境省1428 報告書より引用)





森林整備を計画的に行っている県有林の人工林で
管理捕獲を実施



H19から捕獲を継続し、
シカの生息密度が低下
※生息密度はNPOによる調査データ(未発表)

シカがあまり食べない植物を
中心に植生が回復傾向

森林とシカの一体的管理の有効性

自然林(ブナ林)2007年時点の堂平



自然林(ブナ林)2014年6月の堂平



光条件の良い場所は植生回復が顕著



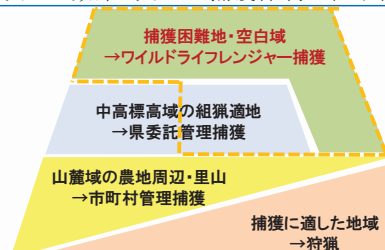
丹沢堂平沢

2004年5月25日

2014年6月10日

撮影: 東京大学 鈴木雅一教授

丹沢での効果的なシカ捕獲体制の組み合わせ



⇒ 水源税導入により、全般的なシカ捕獲体制が取れ、**山岳域**で大きくシカ生息数を減少させてきている。
⇒ 「人工林や広葉樹林の植生モニタリングをしながら」、「シカ捕獲の効果を検証している」ところ。